

月報

<443号>

ケルンボン日本語
キリスト教会
二〇一八年二月三日発行

「戸惑いから賛美へ」

ルカによる福音書一章二六〜五〇節

佐々木 良子

イエスさまのご降誕というとおとめマリヤが天使ガブリエルより、イエス・キリストの誕生を告げられる、いわゆる「受胎告知」の場面を思い浮かべます。これまで沢山の画家たちによって描かれていますが、どの絵も突然の出来事に驚き、御使いの前に佇むマリヤの姿が描かれています。そこにはマリヤの嬉しそうな表情はありません。

しかし、マリヤはその後「身分の低い、このはしためにも目を留めてくださったからです。」(四八節)と、ありのままの姿を神の前に見つめ、何の資格もない私のような者に目を留めてくださったと、神様の慈しみと憐れみにお応えし、神を褒め称え、喜びの中で賛美する者へと変えられていきました。(四七〜五〇節)

この時の彼女はまだ一四歳ぐらいと言われており、自分自身が神の母と呼ばれる事や、この後の天使ガブリエルの説明も到底理解できなかったでしょう。それでも神は不安に陥っているマリヤに対して、理解し納得できるような説明はなさらず、「ご自身の計画と共に最後に「神にできないことは何一つない。」(三三七節)と、たった一言の宣言をされました。

神が弁せられる御言葉は、私たちが語る言葉とは全く異なるもので、まして思いつきでもありません。「・・・わたしの口から出るわたしの言葉

もむなしくは、わたしのもとに戻らない。それはわたしの望むことを成し遂げ、わたしが与えた使命を必ず果たす。」(イザヤ書五五章一節)神は、私たちの思いや決心に先立って権威と責任をもって語られます。私たちは神の言葉を理解し、納得しよう、と考えるものですが、その必要は一切ありません。唯、そのまま素直に受けるだけでよいのです。

信仰とは説得され、納得して受け入れることではなく、また、現実を諦めることでもありません。マリヤのごとく「わたしは主のはしためです。お言葉どおり、この身に成りますように。」(三八節)と、今の自分をそのまま神に預け、神と共に歩き始めることです。

神の御言葉を聞いて行わなければ、その言葉の真実はわかりません。考えても分かるものではなく、御言葉に生きてみて初めて、その強固な力を味わい知るのである。神に従うということは英雄的な行為ではなく、神が御言葉によって開いてくださる道を信じて進むことです。そうして、ひとつひとつ新たな喜びを味わうことができるように、既に備えられています。

当初マリヤは「どうして、そのようなことができるのか、わたしは男の人を知りませんの」(三四節)と、戸惑っています。神を信じるよりも、自分の経験や知識に頼り、又、自分の内面しか見ることができず、あり得ないことだと考えました。神の御言葉を信じない不信仰なものです。私たちも同じです。しかし、それでも良いのです。人は誰もそのような者であることを神は重々ご存知の上で用いようとされます。私たちはあまりにもこの世の常識や、この世の価値観に捉われ、まだ自分の足りない所、負の要素が自分の全てと思いついてはいないでしょうか。マリヤが

最初に「どうしてそのようなことがありえましょうか」と言ったように、その場所に留まっていたはなりません。彼女は確かに一時はそのような思いに支配されていましたが、「お言葉通りに・・・」と、神にその身を預けた結果、自分でも信じられなかったイエス・キリストの母としての使命を全うしました。

聖書の至る所に人間の暗闇の中で、決して消えることのない幸いが記されています。共通している事は、自分自身の中から幸いを見出す事ではなく、神様が与えてくださるということです。本当の幸いとは神さまが、とるに足らない人間を御心に留めてくださる事です。それは、まだ幼い少女・マリヤを用いたように、私たちをも用いようとしてくださっております。

今年のクリスマスは、子どもの礼拝においてになっていらっしゃるご家族の方々、そして教会員一同、総動員でページェント礼拝をおささげできたことです。大勢の方々と降誕劇ができた喜びは勿論ですが、唯一の願いは、イエスさまと出会って頂きたいということです。マリヤのごとくに、戸惑う者から賛美する者へと変えられることを切に願っています。「どうしてそのようなことがありえましょうか」に留まることなく、全知全能の神に目を向けて一歩一歩踏み出して頂けることを祈っています。



《クリスマスに寄せて》

「すべてあの一」

佐々木良子



随分前のことになりましたが、子どもが幼稚園の卒園式の時に歌った「思いでのアルバム」の歌を最近よく口ずさみます。「月一つのーことーだか、思いだしてころん月、あんなこと、こんなことあつたてしゅーン、ん、今年に教会のこと、個人的なこと、あんなこと、こんなことが沢山ありました。しかし、ただ思い出に浸って終わりではなく、同時に神さまの恵みを数えながら、「あんなこと、こんなこと」と、感謝できるということは信仰者としての醍醐味!と、しみじみと思う年末となりました。よくよく考えてみると「あんなこと、こんなこと、全て有り! 全てヨシ!」でした。来年はどのようなことかがあるのでしょうか? 今から期待しています。

シニミック亜弥子

一月二五日は終末主日礼拝でした。今年二〇一八年に天に召された九〇歳になったばかりのビショップ兄、ボンの春子さん、お友達の旦那様を思つて教会内にある小さなろうそくに火をつけました。この三方、共に床につくこともなく急に亡くなられ 私もびっくりました。遺された家族の方々に平安があります様に祈ります。本当に「その日その時をただ神が知る」です。

その日は月一回ある子供礼拝もあり、誕生劇のリハールをしました。佐々木先生が力を入れておられるママの子育て会の人達を中心になって舞台装置を作ってくださいました。作曲家、音楽家、幼稚園の先生など、色々の方が中に居られます。

丁度小学生が二人マリリアとヨゼフの役をし、小さい子供達、親達も勿論、教会員も全部出演で一言のセリフがあります。二月一六日は初めてのクリスマススピーチエント礼拝です。皆さんに神の恵みがあります様に! メリークリスマス!

佐藤グルーベ道子

今年も健康を与えられて元気にクリスマスを迎えることができ、心から感謝です。

特に今年は、小羊たちとまたそのご家族と一緒に降誕劇ができることを嬉しく思います。終戦後三大家族の子供たちが、ストーブを焚きながらした初めての降誕劇を懐

かしく思い出します。幼い時に神様と接する機会を与えられていたのは、何よりの幸いだと思います。そして子供の声のない礼拝は、また日曜日は寂しいものです。神様のお恵みとお導きとよつて先生のお働きも無から作り出すことがなされておりますが、私たちは、実の結びことを心から祈り求め続けたいと思います。今回のご家族の応援に心から感謝いたします。

ヘルガ・マイヤー

今年私たちは何百人もの他の巡礼者と一緒にスペインの聖地を訪ねる旅に参加しました。目的地は使徒ヤコブ(スペイン語でサンティアゴ)の墓があるというサンティアゴ・デ・コンポステーラの有名な大聖堂でした。

スペインの有名なヤコブの道を歩き、素晴らしい古い教会や修道院を訪ねたのはとても感動的でした。ハイライトは、大聖堂での盛大な合同礼拝でした。この旅は深い印象を残し、私たちを豊かにしました。

クリスティーナ・ユアン

クリスマスおめでとうございます。神様が全ての方々のクリスマスを祝福して下さいますように。

赤子のイエス・キリスト、
飼葉桶に眠っている、
母マリリアは笑っている、
彼女の愛が私にとても深く触れる。
*Jesus Christ the baby child,
Is lying in the crib asleep,
and his mother Mary smiles,
her love touches me so deep.*

張谷延河、麻帆

今年は私たち家族にとって、ドイツで迎える三回目のクリスマスです。息子と私がドイツへ来たのは、息子が生後二ヶ月経たない頃でした。そんな小さかった息子も二歳の誕生日を迎え、言葉を発したり、自分の意思を表したりすることができるようになりました。

一月に入り、街がクリスマスの賑やかな雰囲気になると、ドイツへ来たばかりの頃を思い出します。何もかもが初めて見るものばかりで、子育ても初めてで、「私はここでちゃんとやっていけるのだろうか」と不安もありました。ですが、教会の皆さまに助けていただきながら今日まで無事過ごすことができました。

色々なことがあった二年間でしたが、家族皆が大きな

病気や事故に遭つこともなく、健やかに過ごせたことは周りの皆さまと、なにより神様のご加護があったからであると 생각합니다。

神様のお導きとご加護に感謝しながら今年も良いクリスマスを迎えたいと思います。

ビショップ・ウヴェ、桂子、聖歌

いよいよアドヴェントに入りました。今年は、二つの意味で我が家にとってはいつもと違うクリスマスを迎えることとなります。

一つ目は、この春にウヴェの父が九〇歳の生涯を閉じて帰天したことによって、ウヴェの実家でクリスマスを祝うことがもはやなくなつてしまったこと。

二つ目は、クリスマス前に日本へ一時帰国して、日本の家族とクリスマスを祝えること。

この二つ目の計画は、(義)父亡き後、家を片付けることを優先すべきという理由から叶わないだろうと半ばあきらめておりましたが、ウヴェ本人が「来年は日本に帰れるかどうかわからないから、チャンスがあるときに一時帰国しよう。」と提案したので、実現する運びになりました。一年半ぶりの帰省になります。

悲しみのあつた年ではありましたが、クリスマスの喜びはどの家にも訪れます。皆様にとても、喜びあふれるクリスマスとなりますように。

外間久美子

メリークリスマス! 三六年の音楽学校勤務も終えて二月一日付で定年退職しました。不器用で怠け者の生徒が殆どで、ドイツ語も自信がなく、最初のころはやめたいと思つことしばしばでした。ドイツ語の BECC (ヘルフ) は職の意ですが、召命という意味もあります。

信仰が与えられ、まさに神様に与えられた職だということ意識できるようになったころから、生徒たちのレベルがどんどんアップし、優秀な生徒たちに恵まれました。彼らのおかげでほんとに貴重な体験を沢山することができました。問題のある生徒たちからも教師としてあるべき姿を考え学ばされました。「今日も一人一人の生徒と愛情を持って接することができますように、一人一人の可能性を見、引き伸ばせる力を私に与えてください」と毎日祈りました。その祈りを神様は聞いてくださって、支え導いてきてくださったこと心から感謝します。この

クリスマスへの便りが皆様のもとに届くころ私は百歳になった母の傍にいます。一カ月の一時帰国です。三十九年ぶりの日本のクリスマス・お正月です。食欲旺盛の母のために頑張っておせち料理作ってみようかなと思案中です。

ドレーアー京子

昨年七月に次女の直美がベルリンへ引っ越し、娘二人が遠くへ住むことになりました。ケルンからハンブルクへ五時間、ベルリンへは六時間という距離をこれから往復する体力があるかどうか、主人と話し合いました。その結果、ハンブルク近郊に住む長女の近くへ引越しすることが決まり、年初めから家探しが始まりました。しかし小さな村です。売家が少なく、適当な家が見つかるまでアパートに住もうと考えていた矢先、この家がインターネットに掲載されました。五軒長屋の真ん中にあり、家の広さも庭の大きさも私達にぴったりの家です。これまではクリスマスやイースター、あるいは特別な日に娘の家族を訪問するくらいでしたが、先日孫が学校の帰りに私達の様子を見に来てくれました。初めてのことでとても嬉しかったです。娘の住む農場の人たちとは以前からコンタクトがありますが、これからは私達なりにこの地での生活を築いてゆこうと思います。皆様にとって恵み多いクリスマスとなる事を心からお祈りいたします。

藤井千恵

秋休み明けくらいから、ピアノの生徒たちと季節に合う曲を選ぶのが常。三〇年以上前に教え始めた頃と比べると、秋、収穫祭、聖マルチン祭、アドベント、クリスマスなどの歌が、だんだんモダンになってきた。振り付けを添えて歌うものは、幼児に限らず楽しいが、年々キリスト教内容ではない歌が増えてきている。クリスマスチャンジャない家庭も増えてきているのかもしれないが、以前は他宗教、無宗教家庭の子供たちも喜んでSankt Martinや Shile Nacht など歌っていたように記憶する。我が家の子供達も例外ではなく、童謡のみならず賛美歌を歌うことは拒否してきたことから、人ごとではない。二人がまだ小さい頃は、日本の童謡を毎日歌って聞かせてきたので、聞いたら懐かしく思ってくれるかな、私自身が母の歌を覚えていくように。

音大時代の体験を思い出す。色々な国から来た学生仲間とバーベキューをした時に、それぞれの国の歌を歌うことになった。他の日本人達と歌を選ぶ際に、知っている歌が全く一致しなかった。私が歌えるのは童謡、民謡。彼らが知っているのは、紅白歌合戦に出てくる演歌、歌謡曲など。お互いびっくりしたことが忘れられない「ドイツ育ちがなぜ知っているの。」「日本育ちがなぜ知らないの。」

クリスマスは二千年以上前のお話したが、内容は今も変わらず貴重。イエスの誕生は、人伝えて伝わって来たお陰で今でも世界中でお祝いする。誰か一人でも良いから、私が言ったことしたことが元で、イエス様のことを覚えてくれたら嬉しいと思う。世界に平和が訪れるように！メリークリスマス！

「主イエスのご降誕に感謝！」

藤井弘子

この原稿のお陰で私は過ぎにし一年を振り返る。そして今年も神は色々な出来事を通して私に語りかけ、導かれたことに気付く。全身の蕁麻疹(アレルギー)、耳石が外れ、家族がスワ脳溢血！と大慌てしたこと、左肩関節の激痛(溜まった石灰が崩れて炎症)、いずれも次々と突然に襲ってきた。医師はその都度「老化現象」と。しかしながら周りを見渡せば信仰の大先輩方が生き生きと笑顔で教会の外で大活躍。私などとても甘えてはいられない。

二〇一八年、私は日本が二度と戦争を起こさないように(戦争を起こすシステムの未然の防止)無色無臭の放射能でこれ以上故郷を失わないように(反原子力)、また同じ日本人なのに(かつて力づくで日本人にさせられた)沖縄の受ける不公平に対して小さい声を上げる年であったが、大好きな姉に「日本の悪口を聞きたくない」と言われ、友人から「ドイツ人になった」と言われた。でも、でもキリスト者として声を上げ続けたい。

真の平和を身を以て現わされたイエス・キリストに栄光あれと讃美します。

この夏突然に天に召された、礼拝大好きの春子さんを想いつつ、ハレルヤ。

藤井隼人

今年六月一六日は我々夫婦の五〇回目の結婚記念日。業者は早朝から我が家の庭一杯に床付きのパーティー用テント(四×六メートル)を張ってくれ、当日はサンルームと居間も開放して「感謝会」を開くことが出来た。

孫三人と賢治(最年長の孫)の友達一人にケルナー(給仕)を務めて貰い、我々夫婦の高校時代の同期生二人も各々配偶者同伴で偶々日本からヨーロッパ旅行の途次参

加してくれた。感謝会は、佐々木良子牧師とウルリーケ・ゲブハート牧師のお祈りと祝福で始まったが、どういうルートで情報が届くのか、地元メーアブッシュ市の副市长長も記念の祝詞と花束持参で来訪。

ケータリングの料理の到着が遅れたり、不手際も多かったが、雨も遠慮してか会の終了まで降り始めるのを待ってくれ、青空の下楽しい会となった。

五〇年もの間私たち夫婦に寄り添い、導いて下さった神様、これまでお交わりを頂いた全ての方々、そして家族に心から感謝。 Frohe Weihnachten!

吉丸おと

クリスマスの時期になると日本から和慧と一緒にドイツに来て、初めてのクリスマス懐かしく楽しく思い出します。クリスマスツリーをアドベントカレンダー代わりにして、二四日までの小さなポケットを作って、そこに和慧にメッセージやお菓子、プレゼントをいれておきました。彼女は朝起きると楽しみにツリーの所に行き、その日の小さなポケットを探して、私からのメッセージを喜んで読んでいました。今となってはとも良い思い出です。

そんな和慧も、もう高校生になりだんだん親離れし、自分の楽しみを見つけています。昨年は念願だった新しいアパートにも引っ越し、親子それぞれが自分の道を歩みだしています。和慧の成長が私の楽しみです。そのためにも更に一生懸命働いていきたいと思っています。ここまで順調にいられたのも、主の助けと教会の方々、仕事の仲間が助けてくださったからです。神の恵みから心から感謝しています。これからも親子二人、そして、佐々木先生、教会の皆さまと元気に楽しく歩めたら幸いです。

小川オスナー良子

去年から老人介護士の資格をとるために三年間の研修訓練を受けている。未経験の職場で仕事に慣れるためにとにかく働きまくり、あつと言つ間に一年目が過ぎた。職場の同僚やホームの住居者の方々からたくさんのごとを学び、たくさんものを与えられた日々だった。当然のことながら生と死について、介護の現実問題について考えさせられ、同時に介護の質を落とさずに働くためには、自分の健康が大切であることを実感した。

息子ヨハンは一〇歳になって学校が変わり、家で机にむかって宿題をするようになった。一年前とはかなり違う。また少年合唱団に入って四年目の今年の夏にアルト

のソリストに抜擢され、秋には魔笛のオペラに三回出させていただいた。そのために先生方が熱心にレッスンを下され、ドイツの伝統文化を若い世代に伝えていくとする彼らの使命感を感じた。息子は舞台ごとに前より上手く歌えた！と手ごたえがあるようなので、彼の成長を目にすることができ、とても嬉しかった。一二月一六日には町の教会でクリスマスコンサートがあり、彼の合唱団がオーケストラ付きでバッハのクリスマスソラトリオを歌うのを聴き、すばらしいクリスマスプレゼントをいただいた。神様と教会の方々の支えに感謝して。

◇ 報 告 ◇



◇一〇月二二～二五日、日本基督教団総会(日本)に佐々木牧師が宣教報告の為に出席いたしました。私たちの教会や欧州の事情などを多くの方々に知って頂くよい機会となりました。

◇一月五～八日、南ドイツにおいて欧州教職者研修会に佐々木牧師が参加しました。今年は特に欧州の教会に新しく赴任された先生方も多く参加されました。

◇一月一日(祝)に第三八回教会バザーが開催されました。今年もバザーの準備・開催にあたりたくさんの方々のご協力をいただきました。心から感謝いたします。41360ユーロ(純益を、『Brot für die Welt』の活動に献金いたしました。)協力ありがとうございました。

◇十一月九日、Kasselにおいて、EKD主催によるJapan-Ausschussに佐々木牧師と役員らのシヨミット亜弥子姉が参加いたしました。

◇十二月九日、礼拝にてユリアン・アール・アール・アール君(ボン・ハップ・アール・教会幼稚園児)が、証人、ご両親、教会の方々が見守る中、洗礼を受けられました。主の大きな祝福が会堂に溢れました。

◇十二月一〇日、ママの子育ての学び会のメンバーと共に、牧師宅でクリスマス会を行いました。今年は新しいメンバーも加わり幸いな一年間でした。



教会員の熱の籠った羊飼



クリスマスパーティーイベント礼拝&祝会
十二月一六日(日)

初めての試みで、子どもの教会に集っておられるご家族と、教会員が共にイエスキリストさまのご降誕劇を行うことができました。夏前から若いファミリーが中心となって、音楽や舞台の背景などを作成してくださり力づけられました。当日は多くの方々がいらしてくださり祝福された礼拝と祝会となりました。ヨセフ、マリア役のお友だちは沢山のセリフを事もなげに、しっかりと覚え堂々たるものでした。大人もそれに劣らず、なかなかの演技派で見事に演じられました。

又、子どもの賛美として、心温まるリコーダー、ピアノの演奏、特別賛美として、音楽家ご夫妻によるヴィオラとピアノの演奏は、皆様吸い込まれるように聞き入っていました。来年もやる気満々、楽しみます！

◇ 予 告 ◇

二〇一九年 日独語新年礼拝&祝会

日時 一月六日(日) 礼拝一四時

※ドイツ語訳あり、礼拝後祝会

◇一月二七日 教会定期総会

◇一月三一日

リンデンタール地区ドイツ教会新年会

◇二月二七日～四月三日

佐々木牧師、宣教報告のために日本に一事帰国

◇ 編集後記 ◇

今年も残すところ僅かとなり、時の流れの早さに驚くばかりです。お読みくださっている月報は今年から合併号として、一年間に四回の発行となりました。編集にあたり役員会にて検討し、多くの方々に執筆のご協力を頂き感謝いたします。ありがとうございます。しかし、実際の悪さや意思疎通がうまくいかなかった事等、ご迷惑をおかけしてしまつた方もおられ、改めてましてお詫び申し上げます。来年も皆様と協力して、様々な角度からお届けしたいと願っています。引き続きお読みいただければ幸いです。新しい年も皆さまの上に、主の豊かなお恵みがありますようにお祈り申し上げます。(佐々木良子牧師)

発行:ケルン・ボン日本語キリスト教会役員会
Japanische Evangelische Gemeinde
Köln-Bonn e.V.

〈主日公同礼拝〉

会場: Dietrich-Bonhoeffer-Kirche
住所: An der Decksteiner Mühle 1
50935 Köln (Lindenthal), Germany
電話: 0221-4300319 (礼拝前後のみ)
時刻: 毎週日曜日 14:00-15:00

〈牧師〉 佐々木良子 (Pfr. Ryoko SASAKI)

牧師館: Breslauer Str. 26, 50858 Köln
固定電話: 02234-9298792
携帯電話: 0151-2910 6278
Email: r310130s@yahoo.co.jp

〈ホームページ〉

http://koelnbonn.jp

〈振込口座〉

IBAN: DE97 3601 0043 0587 6034 38
BIC: PBNKDEFF